

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス REVE		
○保護者評価実施期間	2025年 5月 1日		～ 2025年 5月 14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22	(回答者数) 15
○従業者評価実施期間	2025年 5月 1日		～ 2025年 5月 14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 5月 15日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	地域の方々のご支援・ご協力を多く得ることができている。公共の施設へ出向き、そこで開催されている活動に参加したり、外部の講師を招き、学校や家庭ではできない運動や作業を取り入れている。(スナッグゴルフ、卓球、香りのセラピー、リトミック、畑での収穫体験、児童館、地域のお祭りに参加、里山体験 など)	様々な経験から自信をつける。たくさんの「できた」を発見し、大人や友だちからほめられることで、新たなことにもチャレンジする意欲を育めるよう意識している。地域の方々に、事業所の存在を知っていただき、多様な子どもたちへの理解を深めて頂く。	経験をもとに、中学校での部活動や将来就きたい職業などを考えるきっかけを与える。今後も地域の力を借り、様々な活動を継続的に取り入れていく。
2	連携の取れたチーム体制で支援を行い、気が付いた点等を共有している。様々な見解を共有し合える環境。職員間で気軽に相談ができる。	その日に行われた支援の内容を振り返り、次に生かしていく。打ち合わせや反省会の時間以外にも、気が付いたことはその場で共有している。些細な変化にも目を向けている。	毎日その日の出来事や、子どもひとりひとりの様子を支援記録に残し、出勤していない職員にも伝わるようにしている。文章だけでは伝わらないことが多いので口頭でも出来事を伝える。様々な角度から、子どもの心理面や背景を考える。
3	日々の活動で子どもが自己決定をできる力をつけるために、柔軟な対応をしている。	臨機応変に活動予定を変更し、子どもたちの「やりたい」という気持ちに答えられるようにしている。それぞれの興味を尊重し、戸外活動、製作活動、調べ学習など、目的別に分かれた小集団活動をしている。	自分の気持ちを伝えることが苦手な子どもの意見も引き出せるよう、支援・環境作りをしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	関係機関との連携、情報共有が不十分。	保護者、学校、医療機関、子ども家庭センター等、関係機関との連携を行いたい機会が不十分。	必要に応じた機関に積極的に出向き、情報共有ができる機会を設ける。同じ方向性を持って支援していけるよう、繋がりを強化していく。
2	スーパーバイズ等の助言が不十分。	職員が日々成長していくための、助言が不十分。経験や知識が豊富な方から見た専門的な意見を得る機会が少ない。業務(支援)の質・効率向上を図るための助言が必要。	新入社員が入った際には、新しい目でみた事業所の印象や改善が望ましい点など、意見を聞き取る。事業所同士の横のつながりを増す。学校や医療機関等の専門的な意見を聞ける縦のつながりを構築していく。外部での研修に積極的に参加していく。
3	職員と保護者による対面での情報共有の機会が少ない。	より一層、気軽に保護者と会話ができる関係・環境作りをおこなっていくことが必要。保護者会や懇談会を開催し、職員と保護者、また保護者同士の交流を持てる機会を増やすべきだが、就業している保護者が多いので都合がつきにくい。	今後もおたよりで全家庭に共通の情報を発信。サービス提供記録では、個別に支援内容と子どもの様子を伝えていく。必要に応じて定期的な面談以外にも対面で話をできる機会を設ける。都合の調整が難しい場合には、電話でやり取りをするなど、積極的に情報共有を行う。保護者会・懇談会の開催を増やす。